

5. 4年間を振り返って

4年間を振り返って

前マネージャー 山本 真綾 (4回生・同志社)



まず初めに、OB・OGの皆様、ファンクラブの皆様、保護者の皆様、いつも多大なご支援、並びに温かいご声援を賜り、誠に有難うございます。4年間、マネージャーとして同志社大学ラグビー部に携わり、本当にたくさんの方に支えられているチームだと身をもって感じました。夏合宿中に毎日のように届くたくさんの差し入れや、試合会場に響き渡る大きな声援など、想像以上のご支援ご声援に何度も感銘を受けました。このようなチームの一員であることが私のモチベーションであり、本当に幸せな時間でした。至らぬ点多々あったかと思いますが、たくさんの方の支えがあって最後までやり遂げることができました。この経験は私の人生の財産です。今年は関西リーグ6位という結果で終わってしまい悔しさがまだ消えませんが、目標としていた日本一には後輩達に連れて行ってほしいと思います。そして、これからは一OGとして、今までとは違った形で同志社大学ラグビー部を支えていきたいと考えています。4年間、大変お世話になり有難うございました。

今後とも同志社大学ラグビー部をよろしくお願い致します。

4年間を振り返って

前マネージャー 増留 聡一 (4回生・東海大仰星)



日頃より同志社大学ラグビー部にご支援及びご声援を頂き、誠に有難うございます。副務・マネージャーを務めさせて頂きました、4回生の増留聡一です。2017年シーズンは野中翔平主将を中心として「大学日本一」を目指し、日々の練習に部員全員が取り組んできました。しかし、現実に関西Aリーグ6位、そして5季ぶりに大学選手権出場を逃す結果となりました。このような結果となり、目標の「大学日本一」を達成することの難しさ、大学選手権に当たり前のように出場できないことを身をもって感じました。2回生からマネージャーとして入部してから、選手が最高のパフォーマンスを発揮出来る環境を整えることを自身の目標に掲げてまいりました。普段グラウンドで練習を見る機会は少ないですが、厳しい練習を最後までやり遂げる選手達がいたからこそ、私も選手に出来るべくマネージャーとしてチームに関わりました。2015年度の8季ぶりの関西Aリーグ優勝、2016年度の11季ぶりの大学選手権ベスト4等、貴重な経験をさせて頂きました。自身のラストイヤーは一昨年、昨年を超えることができませんでしたが、後輩達が来シーズン以降必ず日本一になることを信じています。同志社大学ラグビー部のマネージャーとして過ごさせて頂いたことは一生の財産です。最後になりますが、引き続き同志社大学ラグビー部に多大なるご支援とご声援を宜しくお願い致します。本当に有難うございました。

4年間を振り返って

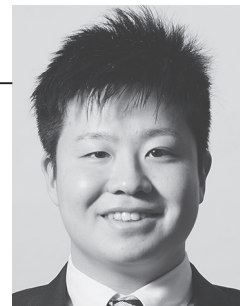
前学生コーチ 吉田 裕 亮 (4回生・同志社)



日々お世話になっております。2017年度同志社大学ラグビー部4年生学生コーチの吉田裕亮と申します。この4年間を振り返ると様々な事が思い出されます。特に選手から学生コーチに転身してからの約2年間は自分自身も成長できた期間だったと思います。転身当初からAスコッドを担当する事になり、戸惑う事もありましたが、選手の協力もあり次第に環境に慣れていきました。転身1年目、チームは大学選手権ベスト4に進む事が出来ました。私自身この結果に対し、コミット出来ていると感じ、選手時代にはなかった充実感を味わう事が出来ました。そして最上級生となり、この結果を超えて日本一になると意気込んでチームが始動しました。どのようにすればチームが強くなるか、自分の考えを監督やコーチに意見しミーティング等も重ねました。1年間を通して例年以上にハードな練習を課し、選手はトレーニングを重ねました。しかし、チームとしての歯車が噛み合わず結果は非常に悔しいものとなりました。それは日頃、練習を仕切っている私の責任であり、コーチとして非常に悔しいものでした。ですが、改めて振り返ると良い思い出も多々あります。特に多くの方と出会えた事は私の中で財産です。同期はもちろん先輩、後輩そして監督コーチ陣、多くの方との出会いで私は成長する事が出来ました。今後の人生はこの悔しい負けを教訓にし、人との出会いを大切にしていきたいと思っております。今後も弊部の応援をよろしくお願い致します。

4年間を振り返って

前アナリスト 安達 右 京 (4回生・同志社香里)



DRCだよりをご覧の皆様初めまして。4年生アナリストの安達右京と申します。日々、同志社大学ラグビー部にご声援、ご支援賜りありがとうございます。この場をお借りし御礼申し上げます。さて、4年間を振り返ってですが、この4年間は私にとって非常に刺激的な大学生活でした。

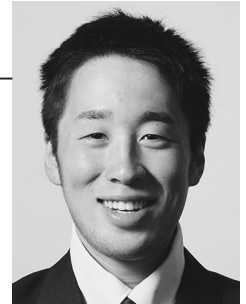
中学でラグビーに出会い高校まで6年間続けてきましたが、大学からは心機一転、分析を通してラグビーに携わることになりました。これまで分析らしい分析をしたことがなく、入部当初は戸惑うことが多くチームに貢献するどころか、ついて行くことに必死でした。

しかし、次第に慣れデータを通しラグビーを見ることで、今までにはなかった視点を持つことができ、また違ったラグビーの面白さに気づきました。自分の分析がチームに反映され、勝利する経験は何事にも変えがたい喜びでした。個人的には日本代表の中島正太さんの講演会に参加させてもらい助言をいただいたことでより精度の高い分析ができるようになったと思います。関西優勝や全国ベスト4を経験させていただき、いざ自分たちの代でと考えておりましたが皆様の期待を裏切る結果になり最上級生として責任を感じ、また後輩にも申し訳なく思います。この4年間を通し、同志社大学ラグビー部という組織がいかに大きな存在かということを感じました。様々な方に支えていただき、同志社ラグビーを通して経験させてもらったこと、出会った方々、仲間は私の一生の財産であります。

これからも同志社ラグビーとBONDし続け、様々な形で恩返しができると思っています。

4年間を振り返って

前トレーナー 岡崎 陽平 (4回生・三島)



私は4年間を振り返ると、様々な人に迷惑をかけてしまいいながらも一番成長できた期間だったと思います。私がラグビー部に入部を決めたきっかけとしては、小学校からの仲間が皆ラグビーを続け努力しており、同じ時期にラグビーを始めた同志社大学の石田君がU20で日本代表に選ばれたことなど、それぞれが何か自分に誇りを持っているのを見て、私も何か人に頑張ったと誇れることをしたいと考えたのがきっかけでした。最初は選手として入部しましたが、同志社大学のレベルの高さについていけず1度は退部を考えましたが、以前から興味があったトレーナーとして4年間やっていくことを決意しました。しかしラグビー部に入部した当初はミスが多く、先輩や同期のみんなに怒られ、選手との信頼を築くことができない期間がありました。しかし、この状況を諦めるのではなく、自分の出来る事を少しずつ行い勉強することで3年の春頃からは何とか選手から信頼を得れるようになりました。私は4年間で信頼関係を築くことや、全員で1つの目標に向かうの難しさ、親をはじめ、周りの人に自分は支えられていることを学びました。私はラグビー部で学んだ事を忘れずに社会に出ても、何か人に誇れるように努力して行こうと思います。